



シネラ・ニュース
June.2002 No.71

特別企画

ヴェム ヴェン ダース

監督特集

特別企画

イメージフォーラム・フェスティバル
2002

6



『ベルリン・天使の詩』
イラスト:花野孝史

image forum festival 2002

EXPERIMENTAL FILM / VIDEO

TOKYO YOKOHAMA KYOTO FUKUOKA

特別企画

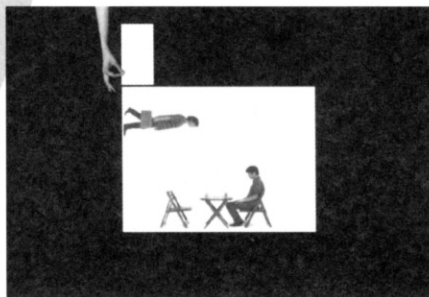
日本最大の実験映画のコンペティションである
イメージフォーラム・フェスティバル。
日本全国から応募されてきた480作品から、
優秀作品を選出。映像作家の新作と併
せて、映像の”今”を紹介する。



次・どこ・行く？



#11、マレー(→)モワレ



景色の映画

主 催：イメージフォーラム・フェスティバル実行委員会 福岡市総合図書館 イメージフォーラム
協 賛：松下電器産業株式会社 東京ガス都市開発株式会社 TDK株式会社
助 成：国際交流基金 大和日英基金 後 援：横浜美術館 関西ドイツ文化センター
協 力：コダック株式会社 富士写真フイルム株式会社 ソニーPCL株式会社 VOW OFFICE 株式会社ダゲレオ出版

A
PROGRAM
5日(水)19:00

「景色の映画」
2001年/ビデオ/15分/林勇気 <一般公募部門審査員特別賞>
[RELIEF]2002年/ビデオ/3分/池田泰教+岩田勝巳
[松前君の死のための映像]2002年/ビデオ/55分/大木裕之
[未現ゾーン]2002年/35ミリ/5分/奥山順市

B
PROGRAM
9日(日)11:00

「版#15~18」2002年/16ミリ/7分/伊藤隆介
「オランダ風」2001年/ビデオ/17分/緒方篤
[THE BOOKS]2001年/ビデオ/6分/佐藤義尚
「僕の肉蔵 君の海」
2001年/ビデオ/9分/島田剛 <一般公募部門入選>
「次・どこ・行く？」
2001年/ビデオ/43分/白川敏弘 <一般公募部門大賞>

C
PROGRAM
5日(水)14:00

「浮遊生活」2002年/8ミリ/30分/万城目純
「むすんでひらいて」
2001年/8ミリ/3分/田端志津子 <一般公募部門奨励賞>
「ダガガダ」
2001年/ビデオ/52分/工藤理沙 <一般公募部門入選>
「スクラップ・ダイアリー」
2002年/16ミリ/6分/田名網歌一+相原信洋

D
PROGRAM
9日(日)16:00

[HOME]
2001年/ビデオ/64分/小林貴裕 <一般公募部門奨励賞>
[HOLE]2002年/ビデオ/7分/中西義久
「静かな一日・完全版」2002年/ビデオ/20分/伊藤高志

E
PROGRAM
6日(木)16:30

「いつも、いつも」2001年/8ミリ/30分/ほしのあきら+内野徹
[Dé-Sign(脱記号)13(Remembrance)]
2002年/ビデオ/8分/VISUAL/BRAINS(風間正+大津はつね)
[SHADOW]
2002年/ビデオ/15分/宮原美佳 <一般公募部門入選>
[OFF THE SYNC]2002年/16ミリ/9分/太田曜
[A LITTLE PLANET~小さな惑星~]2002年/16ミリ/6分/宮崎淳
「フーガの技法」2001年/16ミリ/19分/石田尚志

F
PROGRAM
7日(金)16:30

「悲劇的調子・6話」2002年/8ミリ/12分/末岡一郎
「君の1秒は僕が決める」
2001年/8ミリ/14分/宮川真一 <一般公募部門奨励賞>
「FADE into WHITE#3」2001年/ビデオ/14分/五島一浩
「机の上の痛んだ紙」2002年/16ミリ/6分/黒川芳朱
「2001」2001年/16ミリ/5分/手塚真
「映像書簡8」
2002年/ビデオ/25分/かわなかのぶひろ+萩原期美

G
PROGRAM
6日(木)14:00

「山北作業所」2002年/ビデオ/70分/鈴木志郎康

H
PROGRAM
7日(金)14:00

「もの憑き」2002年/ビデオ/83分/西村昭彦

I
PROGRAM
5日(水)16:30

「幸せ編組」
2001年/ビデオ/43分/金丸裕美子 <一般公募部門入選>
「少年の匂い」2002年/16ミリ/44分/荒牧亮子

J
PROGRAM
6日(木)19:00

「夜明け」2002年/ビデオ/110分/坪田義史

K
PROGRAM
7日(金)19:00

「ショート・フィルム・シリーズ」1975-2002年/16ミリ/12分
「メッセージ」1981-1983年/16ミリ/35分
「フライト」1998年/16ミリ/4分
「フィルター・ベッド」1998年/16ミリ/9分
「鏡を持った男」1976-2002年/8ミリ/9分
(ガイ・シャーウィンによるトーク&パフォーマンス有り)

L
PROGRAM
8日(土)16:00

「楽園追放」
2001年/ビデオ/124分/ヴェラ・ヒティロヴァー/チェコ

M
PROGRAM
8日(土)13:30

「オランダ・アニメーション映画祭特集」
[Suitman:Wens]1999年/ビデオ/1分/山村浩二/日本
「おやすみ、子供たち」
2000年/ビデオ/3分/ユリー・ノルシュテイン/ロシア
[ジュビリー]1999年/ビデオ/6分/山村浩二/日本
[The Dark]1999年/ビデオ/5分/ロスト・A.D./オランダ
「ナットウエスト:エスケープ」
2000年/ビデオ/1分/ピークル/イギリス
「サイエンス・ブリーズ:エンジン内部の燃焼の巻」
1998年/ビデオ/1分/シルビアン・シャルボンノ/カナダ
「友達の輪:エスベラント」
2000年/ビデオ/4分/ユルゲン・ハース/ドイツ
「ネスタ・クール:ドア開閉篇」
1999年/ビデオ/1分/ティフ・ボースウィック/イギリス
「蒸気係長:ラーメン篇」ビデオ/1分/中野裕之/日本
「蒸気係長:決闘、ラーメン、夜空篇」ビデオ/1分/中野裕之/日本
[Matetra:Equal]ビデオ/1分/末永仁志/日本
「父と娘」
2000年/35ミリ/8分/マイケル・テドック・テ・ヴィット/オランダ=イギリス
「#11、マレー(→)モワレ」
1999年/35ミリ/21分/ヨースト・レクフェルト/オランダ

N
PROGRAM
9日(日)13:30

「軽率さの都市」
2000年/16ミリ/13分/トーマス・ドラージェン/ドイツ
「クラブ・イビス」
2001年/ビデオ/12分/フランツ・ヘフナー+ハリー・ザックス/ドイツ=フランス
「セント・ピーターは超有名人で完璧に新しい存在だ」
2001年/ビデオ/13分/ティム・エツェルス/イギリス=アメリカ
[ダブル]
2000年/ビデオ/3分/ローラン・ヴァンサント/フランス
「ダブルス」
2001年/ビデオ/5分/ローラン・ヴァンサント/フランス
「アーキスケート」
2001年/ビデオ 5分 ローラン・ヴァンサント/フランス
「カム・ソフトリ」
1999年/ビデオ/11分/ボビー・エイバート/アメリカ
「ラッキー」2001年/ビデオ/10分/ボビー・エイバート/アメリカ
「弁明」2001年/ビデオ/2分/ケヴィン・メスマン/アメリカ

O
PROGRAM
8日(土)11:00

「DEFACTS OF MEMORY」2001年/ビデオ/15分/二宮丈也
「映像」2001年/ビデオ/9分/園田裕美
「この世の中は私一人には大きすぎる」
2001年/ビデオ/37分/堀田範仁
[Water-魚太-]2001年/16ミリ/26分/太田那奈子

世界各国の映画を紹介するシネマテーク。
 今年はドイツ、ニュージャーマン・シネマを代表する
 世界的巨匠ヴィム・ヴェンダース監督の代表作を上映。

特別企画

ヴィム ヴェンダース

監督特集

12日(水) 19:00 / 15日(土) 11:00
 20日(木) 14:00

都会のアリス



日本語字幕付

出演: リュディガー・フォークラー、イエラ・ロットレンダー

ボラロイドカメラを片手にアメリカを放浪する若きドイツ人ジャーナリスト、フィリップ。エージェントから仕事の打ちきりを告げられた彼は、やむなくドイツへ帰郷すべく空港へ向かう。そこで彼は小さな娘を連れた女性と出会う。女性は娘を彼に託し、姿を晦ましてしまった。娘の名はアリス。そこから彼とアリスの長い旅が始まる。

1974年 / 35ミリ / モノクロ / 112分 / 西独
 監督: ヴィム・ヴェンダース

13日(木) 19:00 / 15日(土) 15:00
 21日(金) 19:00

まわり道



日本語字幕付

出演: リュディガー・フォークラー、ハンナ・シグラ、ナスターシャ・キンスキー

文豪ゲーテの「ヴィルヘルム・マイスターの修行時代」を原案に、現代ドイツ文学の鬼才ペーター・ハントケが脚本を書き下ろした意欲作。小説家志望の青年ヴィルヘルムは、ドイツを北から南へと縦断する旅に出る。印象的な人々との出会いと別れの中で、彼は小説家としての自己を見出そうとするのだが…。N・キンスキーの実質的なスクリーン・デビューとなった作品。

1975年 / 35ミリ / カラー / 104分 / 西独
 監督: ヴィム・ヴェンダース

14日(金) 14:00 / 19日(水) 18:00
 22日(土) 15:00

さすらい



日本語字幕付

出演: リュディガー・フォークラー、ハンス・ツィッシュラー

大型ワゴン車で映画館を巡り、映写機の修理をして暮らす青年ブルーノ。彼は東西ドイツの国境線を南下する旅の途中で、何もかも打ち捨ててワーゲンもろとも川へダイブする男と出会う。男の名はロベルト。意気投合した二人は行き当たりばったりの旅をともにするのだった。カンヌ映画祭国際批評家連盟賞、シカゴ国際映画祭ヒューゴー金賞。

1976年 / 35ミリ / モノクロ / 176分 / 西独
 監督: ヴィム・ヴェンダース

14日(金) 19:00 / 21日(金) 14:00
 23日(日) 11:00

アメリカの友人



日本語字幕付

原作はパトリシア・ハイスミスの「リブレイのゲーム」。しかしヴェンダースは、リブレイ役に『イージー・ライダー』のデニス・ホッパーを起用することで、やはり一種のロード・ムービーに仕上げている。ニューヨーク、ハンブルグ、パリ、様々な舞台を移動しながら進行する暗殺の物語。その物語に、ニコラス・レイらの映画作家(アメリカの友人)たちが、俳優として彩りを添える。

1977年 / 35ミリ / カラー / 126分 / 西独＝仏
 監督: ヴィム・ヴェンダース

13日(木) 14:00 / 16日(日) 11:00
 20日(木) 19:00

ベルリン・天使の詩



日本語字幕付

出演: ブルーノ・ガンツ、ピーター・フォーク、ソルヴェイグ・ドマルタン

カンヌ映画祭監督賞をはじめ、各国の映画祭で大きな成功を収めた作品。ほぼ10年ぶりにドイツを舞台に撮ったこの映画で、ヴェンダースはベルリンという都市の歴史を強く意識しつつ、この上なく美しいラブ・ストーリーを紡いでいく。サーカス団の空中ブランコ乗りの娘に恋をしてしまう天使ダミエル。この恋を叶えるには、天界から人間界に降りていかねばならないのだが…。

1987年 / 35ミリ / カラー(一部モノクロ) / 128分 / 西独＝仏
 監督: ヴィム・ヴェンダース

会 期: 12日(水)～23日(日)

※休館日・休映日を除く

観覧料: 800円(大人)
 600円(大学生・高校生)
 400円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。
 ※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
 ※福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は400円。(手帳の提示が必要です。)

「ニュー・ジャーマン・シネマ」。それは、フランスの「ヌーヴェル・ヴァーグ」を彷彿とさせる映画史上の一大ムーヴメントだった。ヴェルナー・ヘルツォーク、フアスピンダー、そしてヴィム・ヴェンダースを中心としたそのムーヴメントは、作家性を強く押し出すことで、旧態依然としたドイツ映画の変革を目指したものである。

とりわけヴェンダースは、ハリウッド映画やロックといったアメリカ文化からの深い影響を、その魅力は未だに褪せることはない。

『エンド・オブ・ヴァイオレンス』(97年)以降、アメリカを舞台にメジャー級の作品を送り出しているヴェンダース。しかし、その源泉とも言える初期作品の輝きは、多くの映画ファンを虜にし、若い映像作家たちに影響を与えた。

響を、ある世代に共通の体験として作品に取り込み、それによって70年代のいわゆる「シラケ」た気風を見事に表現してみせた。それらの作品は、多くの映画祭で熱狂的に迎え入れられ、ドイツ国内のみならず、世界中の若者の共感を得ることになる。

今回の企画では、ヴェンダース『ロード・ムービー』(旅する映画)を決定付けた、70年代の『都会のアリス』『まわり道』『さすらい』(ロード・ムービー三部作)を皮切りに、『ベルリン・天使の詩』(87年)で世界的名声を得るに至るまでの道程を辿る。さらに、初期ロード・ムービーを追体験したかのとき『リスボン物語』(95年)で締めくくる。

12日(水) 14:00 / 16日(日) 15:00
 22日(土) 11:00

パリ、テキサス



日本語字幕付

出演: ハリー・ディーン・スタントン、ナスターシャ・キンスキー

米国演劇界きっての新鋭戯曲家であるサム・シェパード(後に映画俳優としても活躍している)による散文集「モーテル・クロニクル」を原案に、共同で脚本を仕上げたというこの作品は、カンヌ映画祭でグランプリを受賞し、ヴェンダースの名を一躍世界に知らしめた。失われた家族の絆を再び見出そうとする男の彷徨と、アメリカの原風景を発見せんとするような旅とが、同時に進行して行く。

1984年 / 35ミリ / カラー / 146分 / 西独＝仏
 監督: ヴィム・ヴェンダース

19日(水) 14:00
 23日(日) 15:00

リスボン物語



日本語字幕付

出演: リュディガー・フォークラー、パトリック・ボーショー

「ロード・ムービーの初心にかえて、映画を作る喜びを取りもどしている」と評された作品。録音技師のフィリップは、親友の映画監督フリッツから「SOS、録音機材を持ってすぐにリスボンに来てくれ」との知らせを受ける。フランクフルトからリスボンへ車を走らせるフィリップ。しかしフリッツはサイレント時代の手回しカメラを残したまま失踪していた。

1995年 / 35ミリ / カラー / 104分 / 独＝ポルトガル
 監督: ヴィム・ヴェンダース

香港国際映画祭参加雑感

どこの国の国際映画祭でもそれぞれに特徴があって、楽しみなのだが、特に参加して楽しい映画祭の一つに香港国際映画祭がある。今年も3月末にドタバタと第26回香港国際映画祭に参加してきた。97年の中国返還以来、あまり景気の良い話を聞かないのだが、2年前に香港に行った時には、海賊版のビデオやDVDが横行して映画が商売にならないという話を聞いた。今年は誰に聞いても「不景気だ」「不景気だ」と口をそろえる。どうやら昨年、大手の会社の倒産がいくつか続いたらしい。なにやら日本の状況と似たような感じを受けるのだが、香港の倒産は日本より遥かに過激で、当日まで職員にも知らされず、出社してみたら会社が倒産していて、シャッターが閉まっているため会社の中に入ることもできない、ということも結構あるらしい。一時は大きな社会問題になるが、そのうちまたかとみんな慣れてしまい、ニュースにならなくなってしまう。

香港映画祭もプログラムの選定が遅れたり運営が変更されたりと、予算削減の影響かと思われるものがある。それでもそんなに不景気なのかと疑いたくなるほど、TsimshatuiやWanchaiは賑わっているし、何よりも今年は香港映画の上映が多く、例年以上に作品が充実していたように思う。97年の返還後の香港映画は、香港映画らしくないシリアスな作品が多かった。映画祭で上映される作品が偶然そうだったのかもしれないが、香港映画界がどんな作品を作ろうか迷っていたとも言えるだろう。ところが今年はアクション映

画であれハートウォームな話であれ、楽しく見れた作品が多かった。いつまでもクヨクヨしても仕方がないという香港人の明るさが復活してきたと良い方に解釈したいところだ。ガンバレ香港映画とエールを送りたくなる。その代表が5月にロードショーされる「少林サッカー」だ。本場少林寺からのクレームも何のその、香港で大ヒットした作品で、ワールドカップに併せて日本の観客に受け入れられることを期待したい。

何本かの香港映画を見て気が付いたことを一つ。以前では考えられないくらい映画の中に日本が登場してくるのだ。ここ数年日本人の俳優が香港映画に出演することが数多く見られたせいなのかも知れないが、日本の文化が香港の若者の中に確実に浸透していることを感じさせる。ある映画ではクイズ番組にキムタクに関する問題が出たり、またある映画では日本でAV女優をしていた女性が香港にやってきて俳優になろうとしたり、またある映画では幼稚園で子供が先生に一番好きな場所とは聞かれて東京のディズニーランドと答えたり、etc、etc。映画の中心的なテーマではないが、これほど日本に関することが数多く映画に登場してきたのは初めてのような気がする。台湾では日本ブームだと言うし、香港もお前もかと思わず嘆いてしまう。いやこれも、いつまでも中国大陸ばかりに目を向けず、吸収できるものは何でも取り入れる香港の貪欲さと解釈するほうが良いかもしれない。

映像資料課学芸員 八尋義幸



香港国際映画祭パンフ

6月

上映スケジュール

1 休 映 日

2 自主上映「太白山脈」

3 休 館 日

4 休 映 日

イマージュ・フィルム・フエスティバル

5 水	14:00 プログラムC	16:30 プログラムI	19:00 プログラムA
6 木	14:00 プログラムG	16:30 プログラムE	19:00 プログラムJ
7 金	14:00 プログラムH	16:30 プログラムF	19:00 プログラムK
8 土	11:00 プログラムO	13:30 プログラムM	16:00 プログラムL
9 日	11:00 プログラムB	13:30 プログラムN	16:00 プログラムD

10 休 館 日

11 休 映 日

ヴィム・ヴェンダース監督特集

12 水	14:00 パリ、テキサス	19:00 都会のアリス
13 木	14:00 ベルリン・天使の詩	19:00 まわり道
14 金	14:00 さすらい	19:00 アメリカの友人
15 土	11:00 都会のアリス	15:00 まわり道
16 日	11:00 ベルリン・天使の詩	15:00 パリ、テキサス
17 月		休 館 日
18 火		休 映 日
19 水	14:00 リスボン物語	18:00 さすらい
20 木	14:00 都会のアリス	19:00 ベルリン・天使の詩
21 金	14:00 アメリカの友人	19:00 まわり道
22 土	11:00 パリ、テキサス	15:00 さすらい
23 日	11:00 アメリカの友人	15:00 リスボン物語

24 休 館 日

25 休 映 日

26 休 映 日

29 自主上映「美空ひばりチャリティ懐かしの映画会」

30 休 映 日

インフォメーション



各団体の自主上映

●6月2日(日)13:00～

「太白山脈」(監督:イム・グォンテク)

観覧料/一般前売券:1,200円
(当日:1,400円、シニア:1,000円)

主 催/福岡映画サークル協議会
(Tel.092-781-2817)

●6月29日(土)10:30/14:00

美空ひばりチャリティ 懐かしの映画会(2本立)

「美空ひばり芸能生活十周年記念 希望の乙女」
(監督:佐々木康)

「千姫と秀頼」(監督:マキノ雅弘)

観覧料/前売:1,300円
当日:1,500円

主 催/美空ひばり後援会
(Tel.093-293-2415
牛島弘子 午後8時以降)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。



映像ホール利用申し込みについて

映像ホール・シネラで自主上映(非営利に限る)を希望される方は、下記のとおり利用申込みの受付を行いますのでお申し込みください。

○利用申込対象期間

平成14年12月から平成15年5月まで
※対象日は別途配布の申込用紙に掲載しています。

○申込受付期間

平成14年6月1日(土)～12日(水)※休館日を除く

○抽選日

平成14年6月15日(土)午前11時より

○抽選会場

福岡市総合図書館・3階第2会議室

○利用申込用紙

福岡市総合図書館で配布中の申込用紙をお出し下さい。

○お問い合わせ

福岡市総合図書館映像資料課(事業係)
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
TEL 092-852-0608



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地 下 鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。



編集雑記

N・キンスキーに似た女性に魅せられていた時があった。当時、彼女の面影をスクリーンにダブらせて、出演作をよく観た。時は私たちの姿も心も変えていくが、映画は不変である。今月の「ヴェンダース特集」でスクリーンに映る、当時のままのN・キンスキーとの邂逅は、私をどんな気持ちにさせてくれるだろうか。映画にはいろいろな思い出と楽しみ方があふれている。(H.M)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>